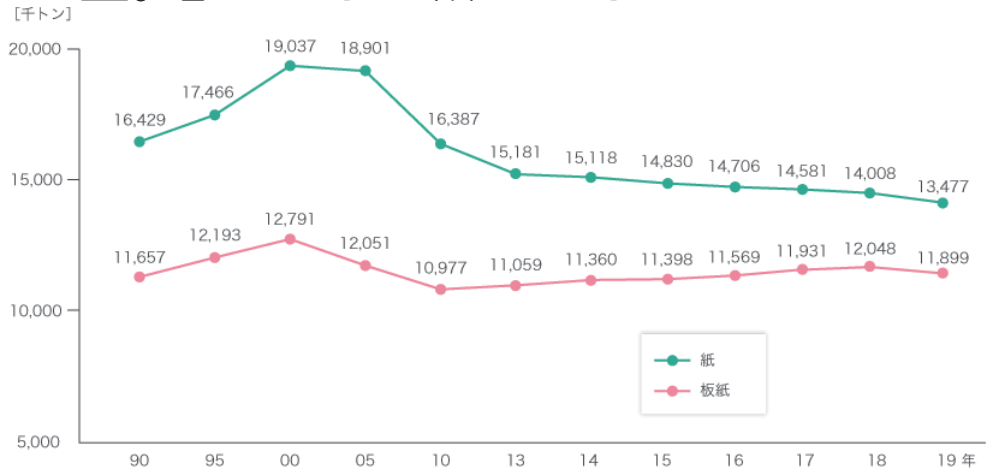


## 紙の生産量。増えてる？減ってる？

右のグラフは、紙の生産量を表しています。ダンボールなどの「板紙」は微増傾向。それ以外の「紙」は微減傾向で推移しています。Amazonなどの通販の台頭でダンボールが増える一方で、オフィスのペーパーレス化が少しずつ浸透していることがわかりますね。

(経済産業省データより)



「Eco列車でいこう！」～第129回～ 春の弥彦山はよりどりみどり！

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行を応援していくコーナーです！)



「弥彦山登山」というと、神社の脇から茶屋を通って山頂を目指す「表参道コース」が一般的だ。小学校の遠足などにも使われる、新潟県民におなじみのコースである。

あまり知られていないが、その他にもたくさんのコースがある。この春、そのうちの3コースを巡った。

海沿いから入山する「田ノ浦コース」。シーサイドラインの「田ノ浦駐車場」から、食堂横の脇道に入り、未舗装路をさらに行くと、15台ほど車を止められる空き地がある。晴天の土曜日でも数台しか止まっていない。道標がほとんどないコースで、木に巻かれているピンクのテープが手がかかりだ。前半は何度も沢渡りをしなければいけないが、マイナスイオンをたくさん浴びて気持ちがいいし、楽しい。登山道は花盛りで、「雪割草」や「カタクリ」が美しい。涼しい風が吹いてくる「立坑跡」を過ぎれば、一気の急登で息が上がるが、まもなく「弥彦山スカイライン」が現れ、九合目あたりで「表参道」と合流。コースタイムは2時間半だが、そんなにはかからない。

別の日、長岡市の西生寺脇から「裏参道コース」を登った。このコースは道標がしっかりしていて、道に迷う心配はない。頂上までは2600m。道標には、歴史や自然などの豆知識が書かれており勉強になるし、全体的に穏やかな道なので、家族連れでも安心して登ることができる。1800m程歩いた「能登見平」の分岐から、頂上とは反対側の「国上山」方面へと進めば、気持ちの良い尾根道が続く。日本海側と越後平野側が両方見渡せる「雨乞尾根」である。この景観は励みになる。急坂を下ると椿の群生があって「八枚沢登山口」に到着した。

今度は「八枚沢コース」を登り返す。最初こそ、沢の流れに癒されるが、それからは、ずっと急登が続く。眺望に乏しく、トレーニングにはもってこいだが初心者にはきついだらう。

どのコースも楽しかったが、おすすめは「田ノ浦コース」だ。弥彦とは思えない山深さがあり、沢あり、花ありで、「二王子岳」に似ているなあ。と思った。ただし、これからの時期は、虫が発生したり、草が深く生い茂ったりするから、対策が必要だろう。滑り止め付きの手袋も必須だ。

頂上に到着すれば、レストランでおなかを満たすことができる。コロナウイルスが終息したら、ぜひ登ってみてはいかがだろうか。

